



物流インサイドレポート

進化する「小菅村モデル」・ドローン配送

山梨県小菅村は人口約650人、住民の46%が65歳以上という少子高齢化の村だ。公共交通機関は1日3本の路線バスのみ。最寄りのスーパーまで買い物に行くのに車で片道40分かかる。

そこにセイノーホールディングスの若手社員が1年半住み込んで、ドローンを活用した「新スマート物流」の実証実験を行った。村の中心にあたる元店舗兼住居をドローンのデポに使用、約300アイテムの食品や日用品を在庫して、住民の注文に応じてドローンで自宅近くのドローンスタンドに荷物を届ける。もしくは配達係の地元民が村内を配って回る。実験を経て2021年11月に商用サービスを開始し、話題になった。

それから2年近くたった昨夏、小菅村で宅配便を含む特積み会社の共同配送が始まった。各社の荷物をドローンデポに集めて同じ車両に混載。各社が個別に配達していた時にはどこも大赤字だったものが、十分に継続可能なレベルまでコストを抑えられるようになったという。この「小菅村モデル」を過疎地域に指定されている全国885市町村に横展開する取り組みが始まっている。

物流共同化のコンセプトとして現在



ドローン配送から貨客混載などへ取り組みがひろがっている

インターネットのモデルを物流に応用した「フィジカルインターネット」が注目されている。車両や倉庫などの物流リソースを社会的に共有、稼働情報を中心に吸い上げて、荷物ごとに最適な輸送方法をシステムで弾き出すことで、全体の処理能力を最大化する。

—日経MJ2024.4.5—

ウエルシア、PB初の冷食

ウエルシアホールディングス傘下のウエルシア薬局（東京・千代田区）は3日、プライベートブランド（PB）商品として冷凍食品2品を発売すると発表した。PBで冷凍商品を販売するのは初めて。全国のウエルシア薬局で取り扱い、30～50代をターゲットとする。からあげやハンバーグなどを今後開発する予定だ。同社が昨年実施した「ドラッグストアにあったらうれしい食品」のアンケートのおかずを求める声が多かったことを受け、開発を決めた。

—日経MJ2024.4.8—



佐佐井株式会社 社員紹介

4月号はリパック・ブレンド室の紹介です。

ブレンド・リパック室は、平成14年に「粉体ブレンドミックス室」を増設し20年にわたりお客様からのご要望に対応して来ました。令和4年5月に新たに「第2ブレンド室」を増設しました。そして令和5年7月にはJFS規格も取得し安全な商品の製造に日々努めています。

メンバーは主任の山下さん、高田さん、長末さん、本田さんの4名です。皆さんの見事な連携でブレンドとリパックの商品を製造しています。

リパック商品は、小麦粉以外に豆類、ドライフルーツ、ナッツ、米粉、砂糖などがあります。



よろしくお祈りします。



1杯2,500円ラーメン店 🍜日本に

ボストン発、提供は月500杯上限

米ボストンの人気ラーメン店「Tsurumen Davis（ツルメン・デービス）」を運営する大西益央氏が4月1日、東京都内に完全予約制の店を開業する。1杯2,500円で提供し、日本のラーメン店が直面する「1000円の壁」の打破を目指す。

店名は「NOODLE EDGE Tokyo（ヌードル・エッジ・トーキョー）」。飲食関連サービスを手掛けるCAPE（東京・渋谷）と組み、大西氏がラーメンを監修する。営業日は月に15日のみで、月500杯を上限とする。場所は非公開で、事前決済で予約した人にメールで案内する。CAPEが運営する紹介制グルメコミュニティサイト「OSASOI（オサソイ）」でチケットを先行販売したところ、3日ほどで売り切れた。24日には一般販売を始めた。米国の「ツルメン・デービス」での価格は1杯23ドル（約3,470円）。大西氏は「原材料費と人件費が上がる中でも、日本ではラーメンが1,000円を超えると高すぎると言われてきた。プライスリーダーとして日本のラーメンの値段を上げたい」と同店を出す意義を語る。

—日経MJ2024.4.8—

